職員のみなさまへ一言メッセージ（第74回）

寒暖の差が激しい日々が続いていましたが、そろそろ、暑くて仕方がない時期がそこまで来ています。ご承知のとおり、今年の夏は、電力不足のために、節電が要請され、真夏の日中をどのように過ごすのか、日本中が大変な課題を背負うことになります。

真和館は、人様のお陰、社会のお陰で存立させていただいている施設であります。できるだけ、節電し、日本の経済を支えていただいている工場等に、電気を廻して行かねばなりません。みんなで早めに知恵を絞り、対策を立てて行きたいと思っています。

さて、今年は、真和館開設から7年目、わからない中を必死に走って来た前期5年が終わり、後期1年目の昨年は、第三者評価の受審、望外の評価を頂き、やっと、一人前の施設になったような気がしています。

今年は、後期5年の2年目、職員のみなさんと一致協力の下、「特色ある施設創り」と「質の高い入所者サービスの提供」をめざして精一杯努力して行きたいと思っています。

そのためには、職員一人ひとりの①「能力や技術力」を高めて行かねばなりませんし、今一つはどこにも負けない②「システム」を創り上げることであります。

どうすれば、この2つの目標が達成できるか、実は、真和館の様々な制度や仕組みの中には既に、具体的な手段、道具組み込まれています。考えて頂ければ、すぐわかると思いますが、①の代表的なものは、各種の特色ある職員研修であり、資格手当、資格取得手当であります。②の代表的なものは、ＱＣ活動であります。このように、制度や仕組みは整っていますが、これで十分かというと、十分ではありません。

何が、足りないかというと職員の③「意識の問題」が残ります。この問題についても、毎朝の朝礼での「明日をひらく言葉」の朗読、毎月1回の「一言メッセージ」の配布など様々な手は打っています。

しかし、そうたやすく、全ての職員の意識を変えるということはできません。また、これで十分ということもありません。

週間現代（ＧＷ合併特大号）のプロ野球ザ・スカウトという記事を紹介させていただきます。「プロに入ってくる選手は、誰もが何か一つ、ピカイチの才能を持っている」プロ野球のスカウトたちは、例外なくそう語る。だが彼らはこう付け加えるのを忘れない。「ただ、そのすべてが活躍できるわけではない」。では、活躍できる選手はどんな選手でしょうか。「伸びるかどうかは、簡単な練習をいかに丁寧にできるかですよ」「こなすだけ」では駄目になる。「慣れるということは考えることを辞めてしまうことなんです。逆に、同じ練習からでも昨日と今日では違うことが感じ取れる選手は必ず成長する」。「学習意欲と根気のある選手を探すようになった」という記事が目に留まりました。

平成24年5月25日　　真和館施設長　　藤本和彦